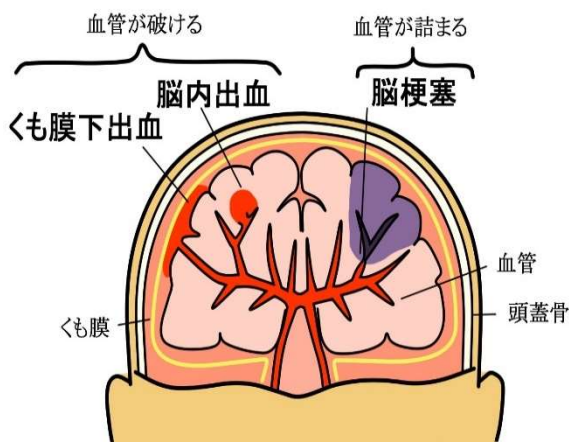


認知症医療センターには、一般市民、専門職の方々へ認知症に関する情報を発信し、認知症の普及・啓発を促進するという重要な役割があります。センター便りとして定期的に情報を発信していきます

## 特集 2 脳血管性認知症について

### ■ 脳血管性認知症の原因



脳の血管の病気（脳血管障害、脳卒中）によって引き起こされる認知症です。脳の血管が詰まる脳梗塞、脳の血管が破れる脳出血やくも膜下出血、長期間の脳の血流低下によるものなど多くのタイプがあります。

脳血管障害は高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病、心臓の病気、喫煙、飲酒、肥満などが原因になることが多いため、（特に中年期に）生活習慣病の治療や、生活習慣の改善をすることが予防になります。

また、生活習慣病は治療しないと血管性認知症だけでなく、アルツハイマー型認知症にもなりやすくなるといわれています。

### ■ 症状と特徴

脳血管障害を起こした部位や大きさによって現れる症状は異なりますが、1)～3)のような症状が組み合わさってみられることが特徴です

#### 1) 認知機能の障害の例

- もの忘れ（記憶障害）
- 日付や場所がわからない（見当識障害）
- 注意が散漫になる、集中力が続かない（注意障害）
- 言葉を理解できない（言語障害）
- 物の位置関係や距離感がわからない（視空間認知障害）
- 計画を立てたり、物事を段取りよくこなすことができない（遂行機能障害）

#### 2) 精神症状

- 怒りっぽくなる
- ちょっとしたことで大泣きする（感情失禁）
- うつになる
- 意欲がなくなる、自分からあまり動かなくなる（意欲低下、自発性低下）
- 考えるのが遅くなる（思考緩慢）



### 3)身体症状

- 手足が動かしにくい（麻痺）
- うまく歩けない、転びやすい
- 動きが遅くなる、小刻みに歩く（パーキンソン症状）
- 言葉をうまく発音できない（構音障害）
- 食事を飲み込みづらい、むせやすい（嚥下障害）
- 尿の回数が多い、失禁してしまう（頻尿、失禁）



### 4) まだら認知症

認知機能の中で、障害のある部分とない部分の差が大きい（ムラがある）という特徴があるため、「まだら認知症」ともいわれます。

#### ■ 進行の特徴

脳卒中を起こすたびに認知機能が低下する（階段状の低下）ものが典型的ですが、明らかな脳卒中発作がなく徐々に進むタイプのももあります。

脳血管障害がある場合でも、それが認知症の原因になっている場合とそうでない場合があるため、詳しい問診や診察、検査によって関連を慎重に判断する必要があります。

治療では、原因や体の症状に応じた薬の調整が必要になります。高血圧症や糖尿病など脳血管障害の原因となる病気があれば治療を続けます。脳梗塞に対しては血をサラサラにする薬によって再発を予防します。その他、体の症状や精神症状に対して薬を調整しますが、認知機能の低下については、アルツハイマー型認知症の薬（保険適用外）で効果があるとの報告もあります。

（認知症医療センター長 井ノ口 貴俊）



#### [次号の予告]

- N03では、8月～9月の活動報告を掲載いたします
- No4では、特集3「レビー小体型認知症について」を、No5では、特集4、「前頭側頭型認知症について」を掲載いたします

#### [ご意見・ご要望を募集しています]

- 「センター便り」に関するご感想やご意見・ご要望は、認知症医療センター事務局までお気軽に下記までご連絡ください

#### [編集・発行]

医療法人 福翠会 高山病院 福岡県認知症医療センター

〒822-0007

福岡県直方市下境 3910-50 TEL 0949-23-0520 FAX 0949-24-0838

E-Mail takayamaninchis@gmail.com URL <https://nogata-fukusuikai.jp/>